

第2回市民自治推進委員会議事概要

1 日 時 令和7年8月22日（金） 10：00～11：55

2 会 場 鳥取市役所駅南庁舎 地下1階 第1会議室

3 出席者

（1）委 員 安達委員、稲垣委員、甲田委員、清水委員、城野委員、鈴木委員、
中川委員、西原委員（50音順）8名出席

（2）鳥取市 協働推進課：小森課長、酒本課長補佐、西谷主事

4 議 事

（1）報告事項

①協働のまちづくりガイドラインの進捗について【資料1】

（事務局）

【資料1説明】

（委員長）

疑問に思うことや詳しく聞きたいことがあれば、どんなことでも良いので発言して
いただきたい。

（委 員）

資料9ページ目の項目7番で民間事業者等からの提案件数が記載されているが、こ
のうち提案が実現した事例はあるか。

（事務局）

事業化に向けて関係課で検討を進めた結果、実現に至った提案もある。令和6年度
末時点で実現に至った提案件数は、令和4年度受付分が3件、令和5年度受付分が2
件、令和6年度受付分が1件となっている。提案の中には、現在、継続して事業化に
向けた協議をしているものも含まれている。具体的には、アクティブシニア向けの健
康や衛生をテーマとした講座や音楽を通して子どもの発達支援、高齢者の認知症予防
を目的とした講座が実現に至った。

(委 員)

資料3ページの項目2番では、地域コミュニティに対する支援の取組として、町内会が行う納涼祭等の催しに3万円の助成を行う制度（鳥取市地域コミュニティ活動支援事業）について記載されている。集会所の修繕についても活用できると説明があったが、この集会所は、地区公民館を指しているか。

(事務局)

地区公民館ではなく、各町内会の集会所を指している。

(委 員)

集会所の修繕等に対する市の支援制度（鳥取市町内会集会所新築等補助金）では、50万円以上のものを補助対象としており、50万円未満のものは補助対象外となっている。しかし、実際には、50万円未満の修繕が必要な場面が多い。20万円程度の修繕等を対象とする支援制度の必要性を他の委員会で申し上げたことがある。畳の張替えなどの中規模な修繕は50万円もかからないため、そこに対して少しでも支援いただける制度があれば良い。

(事務局)

鳥取市町内会集会所新築等補助金では、新築・増改築・修繕・取得にかかる補助対象経費を50万円以上としており、50万円に満たない修繕を複数組み合わせ、50万円以上となればご申請いただくことも可能である。50万円を下回る金額の修繕は、鳥取市地域コミュニティ活動支援事業を活用いただくこともできる。しかし、上限額が3万円なので、修繕の規模によっては少額な補助となる。

(委 員)

私の地区では、地区公民館の調理室へのエアコン設置を求める声があり、市に対して要望していた。私は、市に設置してほしいという思いがあったが、市が予算の範囲内で順番を決めて実施しているため、すぐに実施できる見込みが立たなかった。地区として様々な検討を行った結果、区長会の資金でエアコンを設置した。エアコンの設置後は、利用者から助かったという声が挙がっているため、地区としては実施できて良かったと思っている。市においても、予算に限りがあるとなれば困難だと思うが、利用者や住民の声を大事にしなければならないと私は思う。

(事務局)

地区公民館は市が所有する公共施設の1つである。市内61地区にそれぞれ設置し

ており、建物の改修や修繕は市が計画を立てて順次進めている。

(委 員)

緊急度の高い修繕が突発的に発生する場合もあるため、市として順番を断言できない状況にあると考えられる。ただ、地域としては市から順番を待ってほしいと言われ続けるため、紹介された事例のように、地域内で合意形成を図り、設備を整備する地区が出てきている。市に対する要望は継続しつつ、地域側で自主財源を作って動き出す方が結果として早い実現につながっている。こういった事例が今後増えていくのではないだろうか。

(事務局)

地区公民館は市有施設であるため、施設の整備や改修は市の予算で行わなければならない。ただし、決められた予算の範囲内で執行するため、利用者に危害が加わるような危ない箇所や、すぐに修繕しなければ施設利用ができないような緊急性の高い箇所を優先的に修繕するという考え方で進めている。

近年の猛暑で、冷房設備の設置に対するニーズが高まっている。地区公民館には様々な部屋があり、利用状況も異なるため、常に人がいる部屋や利用頻度の高い部屋から順番に設置するという考え方のもと、現在は事務室や大広間等のよく利用される部屋から整備を進めているが、全館のすべての部屋に設置することは難しい。

調理室では火を扱うため、熱中症の危険性が高まることから、何とか冷房設備を整備する予算を確保し、順番に整備を進めたい市としての思いはあるが、一度に整備できない状況にある。設置まで待てないので、地区からの寄付という形で冷房設備を設置したい旨の申出もいただいている。市としても熱中症対策という観点から対応を考えていく必要があると感じている。

(委 員)

私の地区には地区体育館があり、体育館内に設置されているバスケットボールのゴールが壊れており、新たに設置するよう求めているが進んでいない。体育館は、中学校の生徒が部活で利用することもあるから、教育委員会は教育的効果が減退していることを真摯に受け止めて、設置をお願いしたい。

(事務局)

地区体育館は、教育委員会事務局の生涯学習・スポーツ課が所管している。中には地区公民館と一体になった施設もあり、地区公民館を通じてバスケットゴールが外れかけている等の状況を事務局も耳にしたことがある。

バスケットゴールの種類によっては、大きな工事が必要なものもあり、経費面の問題や、既に製造されていない製品であればすぐに取り替えられないといった事情もある。現状は、危険な箇所には立ち入れないように対策するなどして、予算の確保について考え、何とか進めたいという思いがあることは所管課から聞いている。本日のご意見は所管課へお伝えしたいと思う。

(委員長)

私の地区でも、地区公民館の建設時に、調理室にエアコンの設置を求めていたが、設置される見込みがなかったため、地区で資金を集めて設置した。必要な設備は、市に対して要望するが、市が対応できない部分は、地区で設置するという方向で進めていた。これが参画と協働のまちづくりとなるのかは疑問が残るが、地域でできる部分はやっていかなければならないと思う。

(2) 協議事項

① 鳥取市自治基本条例の解説書（素案）について【資料2】

(委員長)

市民自治推進委員会は、自治基本条例の内容について議論し、時代に合った条文であるかどうかなどの意見を市長に述べるのが重要な役割の1つとなっている。

前回の見直しでは、「コミュニティ」という用語が分かりにくいこと等をテーマに挙げて、中学校卒業程度の知識で理解できるような、分かりやすい内容となることを念頭に検討を行った。併せて、法的に問題がないかどうかを含めて議論を重ね、市長へ答申している。

(委員)

第3章「自治の基本原則」の第5条第4項では、「市は、市民が参画及び協働しないことによって、不利益を受けることがないように配慮します。」とある。町内会を退会する方が増えているが、そのような方が不利益を被っている実態もあるのではないかな。

また、人口が減少し、高齢化が進む鳥取市の将来をふまえた内容が条例に含まれていてもよいのではないかな。現状だけを踏まえた条例でよいのだろうかと思う。

第13条第3項には、「職員は協働の視点に立ち、市民との信頼関係を築くよう努めます。」とあるが、鳥取市自治連合会の会合においても町内会に加入していない市職員が多いのではないかなという話題が挙げられたこともある。県職員は、前知事時代に地域の役を積極的に受けるよう通達が出されたこともある。一方で、市職員は「信頼関係を築く」という綺麗な言葉だけになっているので違和感を持つ。このあたりも何

か考えていただければという思いがある。

(委員長)

12ページに町内会の加入率の推移が記載されており、令和6年は60.2%となっている。この数値の算出方法にも課題があるが、この先10年後も同じ傾向で推移していけば、さらに加入率が低下することが見込まれる。地区ごとに実態は異なるが、高齢化が進み町内会費が払えない方が増えている町内会や、町内会としての役割を担っていくことができない町内会が実態として出てきている。その中で、町内会が行っている仕事は非常にたくさんあることもふまえて、条例の見直しにかかる議論を進めてきたと思っている。

町内会に関わる新たな動きも出てきている。例えば、ゴミ収集に関して自治会未加入者に対して、町内会がゴミ収集場所の利用を禁止したことに対する訴訟も起きている。

市においては、6月定例会において、町内会に関する住民アンケートを実施すると市長が表明されており、町内会の実態が浮き彫りとなっていく年度になるのではないかと考えている。

② 参画と協働のまちづくりフォーラムについて【資料3】

(委員長)

フォーラムは、2年に1回の頻度で開催しており、来年度の実施に向けて早めにテーマを決めていく必要がある。前回は、今年1月に開催したが、能登の地震などを踏まえて、普段から顔の見える関係づくりに取り組むことが災害に強いまちづくりにつながることをテーマにして開催した。参画と協働のまちづくりについて市民が考えるきっかけとする目的で開催してきた。

(委員)

テーマについて、自治会加入や防災に関するものは、皆さんの興味や関心が高いと思った。鳥取市では、今年度から鳥取市福祉推進計画が開始し、防災の観点から地域コミュニティを考えるとという視点を継続して持つのは大切なことである。皆がどう助かるか少しでも関心を持ってもらえればと思う。

(委員)

防災は非常に幅が広く、奥行きも広い。私の地区は4年前に宝くじの補助金を活用して防災機材を整備したが、それでも設備が不足している。公共施設に水を貯めるタンクを設置したり、近くの商業施設の立体駐車場を避難場所に設定したり、各町内会

の集会所の電柱に水害時の浸水表示を設置したりしている。様々な取組をしているが、どこまでしたから完璧だという線引きができないのが地域防災だと思う。

(委 員)

今日の目的は、協議を通してフォーラムのテーマに関するキーワードを出すことではないだろうか。前は防災をテーマに開催したが、それ以前は地区公民館やまちづくり協議会などを取り上げて、地域組織の運営や市民参画をテーマとして開催していた。防災を継続してテーマとすることや、昨年度のフォーラムで実施したアンケートを参考にして、今回のフォーラムの方向性についての意見が出せれば、たたき台が作りやすいと思う。

(委員長)

資料には平成20年度から昨年度までの開催状況が記載されている。町内会や防災などに関わる様々な地域課題に関係したテーマが選ばれているが、今回も委員会において議論を深め、フォーラムを作り上げていかなければならない。

(委 員)

ChatGPTに「市民参画協働フォーラムを開催するとしたら、どのようなアイデアがあるか」と尋ねてみたところいくつか候補が出てきた。

具体的には、「防災」、「多文化共生」、「若者と地域の未来づくり」などが提案された。その中でも、「デジタルと共生する地域コミュニティ」というテーマは、デジタルツールを使って、地域のやり取りが円滑になるという切り口でおもしろいテーマになるのではないかと思った。私の知人が、高齢者向けの生成AIの研修会を地域で行っているそうだが、多くの申し込みがあると聞いたことがある。また、PTAの運営においても、LINEを活用した運営が行われている。デジタルツールを活用して、住民参画や新たな地域への関わり方ができることはおもしろい視点だと思う。これまで参加いただけていない層の住民も会場に呼べるのではないだろうか。

(委員長)

鳥取市自治連合会の町内会長研修会においても、デジタル技術を活用した町内会運営をテーマとしていた。米子市旗ヶ崎の自治会では、LINEの公式アカウントを情報共有の手段として活用し、約8割以上の地域住民が公式アカウントを登録し、様々な情報共有が行われている。しかし、利用できない方もあることから、紙媒体による情報共有も併用することで、情報格差がないようにしている。

その他には、役員のなり手不足が課題となっていたため、事業部を設けない組織体

制に変更し、必要な時に協力いただける方を募集して、住民が自発的に活動に関わってもらえる体制へと見直していた。その結果、負担感を持たず地域を盛り上げるために活動する住民が増え、少しずつ地域づくりが成り立ってきている。このような事例は、これからの地域づくりのヒントになるのではないかと思う。

デジタル技術も地域活動を行うためのツールの1つではあるが、格差が心配される場所であるが、小学校では紙媒体の配布物がなくなり、電子データによる配布となってきている。

(委員)

フォーラムのテーマについて案を出して、その後の流れはどのように進めていくのか。

(事務局)

今後の流れは、内容の骨子を今年度中に本委員会で完成させる予定としている。また、フォーラムを実施する主体として、実行委員会を別途立ち上げて実施している。実行委員には、本委員会の委員や開催テーマについて知見を持つ方に実行委員会へ参画いただいてきており、実行委員会では細かな内容を決定していく流れを考えている。

具体的なスケジュールについては、本委員会または実行委員会で決定することになるが、状況を見ながら決定したいと思う。

(委員長)

今回は、令和7年1月18日に実施し、阪神淡路大震災の節目の日に近い日程で実施した。理想はもう少し早い時期に実行委員会を立ち上げて、秋ぐらいにはフォーラムが実施できればと考えている。より多くの方々に来ていただき、それぞれが意識を高めて、見聞きした内容を自分の住んでいる地域で生かしていけるようなフォーラムになれば良いと思う。

(委員)

防災について、他の地域で災害が発生すれば一時的に意識が高まるが、時間が経つとどうしても意識が薄れてくることから、定期的な意識づけが必要だと思う。

地域のデジタル化については、世代によって状況が異なるが、デジタルツールを活用できる世代は増えてきているため、現在は、その過渡期にあたるのではないかと考えている。移り変わりの時代ではあるが、誰もが上手に活用できる時代になれば良いと思う。

(委 員)

私は防災に興味があるため、昨年度のフォーラムで能登半島地震の教訓を踏まえた講演があったように、引き続き防災をテーマにすることはよいのではないかと思った。

ただ、フォーラムを開催するにあたっては、誰もが興味を持てる内容を考えなければならないと思った。先ほど話に挙げた ChatGPT も、活発に活用されているため、現代に必要な観点だと思う。私としては、防災やデジタルツールについてのテーマが良いと思った。

(委 員)

私はデジタルツールの活用と地域活動についてのテーマが気になっている。

(委員長)

みなさんよりいただいたご意見をもとに方向性を決めていきたいと思う。

(3) その他

(事務局)

次回は、11月中旬の開催を予定している。